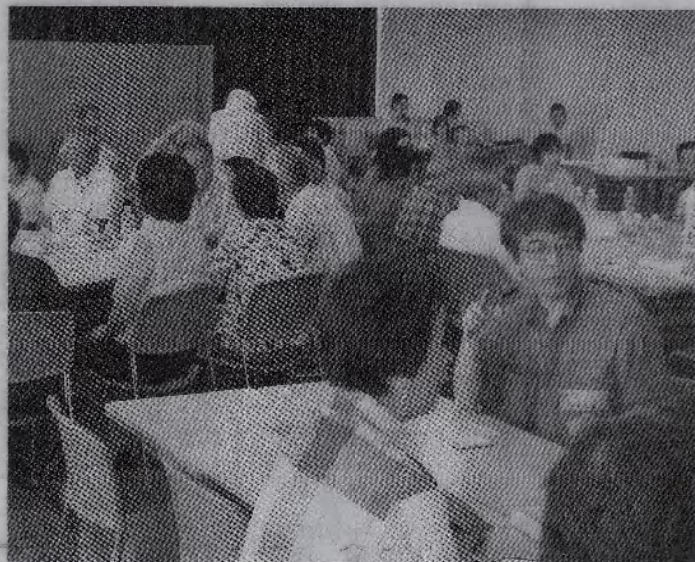


福島県からの避難者などが集まって交流を深めた
=つくば市郊間の同市役所



避難者同士が交流

ふうあいネット

つくば市と協働で

東日本大震災や東京電力福島第1原発事故の影響による、福島県などからの避難者を支援するネットワーク「ふうあいねっと」結成後初の避難者交流サロンが10日、つくば市と官民協働初の事業として、同市郊間の同市役所で行われた。

同ネットは避難者のニーズを共有しながら対策を検討し、取り組んでいくための組織として5月末に結成

された。NPO法人や大学、企業、専門機関など協力団体も含め23団体が参加している。

サロンには、富岡町、浪江町、双葉町など福島県を中心に、岩手や宮城県からも約50人が参加。被災者同士の交流がまったく無く、孤立して不安な状態にあるという近隣市町村からの参加もあった。

交流の中では、浪江町や双葉町の自治会発足の動き、ふうあいネットや筑波大学、筑波学院大学、茨城

大学などの支援者団体の動きなどが紹介された。また、弁護士、社会福祉士なども参加して避難者の相談を受け付けた。

ふうあいねっとの武田直樹副代表は「こうしたつくば市の取り組みが近隣市町村にも広がってほしい」と話していた。(園部高秀)